

2006年11月／12月

私達の共同体であるアシャ・ニケタン（希望の家） Asha Niketan の年長メンバーと友人達に黙想を指導しているインドのバンガロール Bangalore で私はこの手紙を書き始めています。昨日私は若い人達と短期間‘希望の家’に居た人達の為の最初の黙想を終えました。私がこの前の火曜日にバンガローに到着した時、一日の祝いの為に集まった4つの全共同体から歓迎され深く感動しました。全部で150人でした！ コルカタ Kolkata から 36時間の汽車の旅をした60人、ナンディバザール Nandi Bazaar から40人、チェンナイ Chennai から20人、そしてバンガロール Bangalore から30人でした。私はずっと前に我々の多くのインドの兄弟と姉妹に会いました。その‘希望の家’ Asha Niketan の初期からよく知っているスリニバス Srinivas、ヴィラン Veeran、モドゥ Modhu、ミトラン Mitran や他の多くの男女に歓迎された時 私は感激で泣きそうでした。彼等の何人かは非常に乱暴でしたが今穏やかな人になりました；彼等は変わり共同体の創造者になりました。この大きな集まりから湧いた喜びと平和は、我々が神の王国を発見する時、私達の心に現れるに違いない喜びのようでした。ベンガルの詩人、タゴール Tagore の詩の一つに：“奢る心では決して近付くことはできません\_\_最も貧しい人、最も賤しい人と挫折した人たちに交じって 貧しい服を纏いあなたが歩いていられるところへは。”（ギタンジャリ Gitanjali 10）その通り、神は貧しい人たち、最も身分の低い人と挫折した人たちの中に本当に存在しています。我々の‘希望の家’ Asha Niketan の人々はもう以前ほど貧しくありません、なぜなら彼等は愛、親切と優しさに富んでいるからです。彼等は所属する場に居るのでもう孤独ではありません。彼等は見いだされたのでもう路頭に迷っていません。

私は42年前に トマス神父 とラルシュを初めたことを考えます。私は自分が何をしているか知りませんでした。私はラファエル (Raphael) とフィリップ (Philippe) と一緒に住み始めました。私は彼等が私をどこに導くのか又はこの関わりの結果がどうなるのか分かりませんでした。そして数年後、1974から1978年にかけて‘希望の家’ Asha Niketan で暮らすことになったマルタバーラ Martha Bala に伴われて、私がインドへの旅行をしているであろうなどという途方も無い夢も持っていませんでした。ラルシュは本当に奇跡の神業です。インドでのこの時は我々の共同体が神の仕事であるという私の信念を深く確証しました。預言者、イザヤは 神の名前で宣言する時、神業の光景を告げています。：

**“ 恐れなくてください、私はあなたを購います (あなたを自由にしました)  
私はあなたの名を呼び、あなたは私のものです。  
もしあなたが水の中を通る時も、私はあなたと共に居ます。、、、  
なぜなら、私はあなたの神、あなたは私の目に貴く、  
そして私はあなたを愛しますから、、、  
恐れなくてください、私はあなたと共に居ます。 “ (イザヤ43)**

我々の世界に広がる共同体のひとつひとつが危機と痛みを持ちながら、それでもなお其々がそこで、生き活きと生きています。そうです、我々の共同体は本当に神の仕事です。そして障害を持っている人々のとても美しい変化だけではなく、また同じ様に何百というアシスタントや友人たちが変化しました。仲間の多くが出生の前にさえ殺される世界、弱く貧しいものは簡単に軽蔑され、見下され、わきに押しやられる世界で、共に暮らし、友情、そして私達の定められた関係は 我々の使命を明らかにします。一人一人そしてすべての他の人々と同じ様に 障害を持つ人々は 貴く、神聖であり、尊敬されるべきです。彼等は我々すべてに与えるべき賜物を持っています。効率を育成し権力と富を求める世界で、我々の仲間は優しい親切とお互いに存在し合うことの大切さを顕かにします。個人主義を促進する世界で、我々の共同体は所属すること、一緒に生活を祝うこと、そしてそれぞれの存在を祝うことの重要性を顕かにします。個人、国々、宗教団体が神力から権力と支配を行使す

ることを願う世界で、我々の仲間は愛、優しさ、そして許しの神を頭かにします。私は年取るにつれて、彼等の謙虚さで私を愛の道に運んでくれた兄弟姉妹と 私の生涯の大部分を共に過す事になったとはなんとという恩恵かと悟ります。私は年老い弱くなっても、彼等の内に私の生活と死を共有し続けることができるようお願い祈ります。

政治的疑惑、不正行為、汚職を暴露していた為に、モスクワで最近暗殺された記者のアンナポリコウスカヤ **Anna Polikovskaia** が、引用していた：“貧しく、目立たない人々が生きることができないのなら、無駄な生活です。“彼女は続けて、正義、平和と真実のために働くことは 超人のためだけではなく、自分達の命をいっそう完全に共有する為に自分達の命を与えることを願う我達のすべてのためであると言いました。

インドにある私達の共同体について そして如何にインドにおけるラルシュのコーディネーター、クニ **Kunni** が、彼等に指導と援助を与えているかあなた方と多くを分かち合いたいのですが私はこの手紙にその紙面を持ちません。少なくとも1つだけ分かち合います。：カルカッタの共同体のリーダー、ラキ **Rakki** がどのように共同体の人達が近所の若者達によって困らせられ、そしてあざけり笑われていたか私に告げました。祈祷室の前に置かれた靴や、他の物が盗まれていました。共同体は彼等の家の前で共同体の全員が参加する公開劇をすることにしました。主題は タゴールからとられました：法律を重んじる人達と非常に開放的で自由な人達が対立し最後に相互理解と仲直りに終わる物語です。その区域から300人程が来て、彼等がラキに6カ月後に他の出し物を頼むほど大喜びでした！そして その区域の人々はもう我々をからかったり笑うこともなく、かえってますます受け入れるようになったとラキは付け足しました。‘希望の家’はその地域のために、愛の具現とすべての人を受容することを報せる小さな徴です。

前回の手紙から今まで私は多くの催しに関わってきました。多分あなた方は、私が引退するつもりだと言った時、皆笑いました！ 実際私は随分ゆっくりし、祈り、孤独と読書に多くの時間を費やしています。私は旅行と責務を減らしています。いっそう私の共同体、そして私の家 “レバル **Le Val** ”に居ることができとても嬉しいです。私はジャン・クリストフ **Jean-Christophe**、クリスティーン **Christine**、フランスのコーディネーター ルイス **Louis** と分かち合い霊的に交わる時が好きです。それは与えられているすべてを感謝し、そして痛みと難しいことを祈りで支えるために一緒に時間をもつ恵みです。

去る9月、私は、1996年にヨハネ・パウロ2世 (**John Paul II**) が世界中の宗教的なリーダーを集めた最初の国際的な会合の記念のために、アシジ **Assisi** にいました。この祝典は聖エジディオ **Sant 'Egidio** 共同体によって催されました。分かちあい、平和の為に祈り、そして今日の平和と祈りの徴であるために我々皆集まりました。回教徒リーダー、ユダヤのラビ、司教と他のリーダーと一緒にいくつかの講習会で特定の論題において分かち合いました。私は “神の愛と人々の愛” についての講習会に関わりました。私は ベタニー **Bethany** の近くのラルシュ共同体に受け入れた重い障害を持っている若いイスラムの少女ガディアー **Ghadir** について、そして彼女との出会いがいかに私の転機の間となり神の徴となったかを伝えました。

その後の同じ月に私はアバディーア **Aberdeen** 大学 (スコットランド) でジョン スウィントン **John Swinton** 教授 によって準備された2日間の討論会 ‘ラルシュ:優しさの間’ に関わりました。他の主な演説者はデューク **Duke** 大学(U.S.A) から評判の神学者スタンレー **Stanley Hauerwas** 教授でした。我々の共同体、教育学、生活様式 そして今日の世界へのラルシュのメッセージについて彼が全てよく知っていることに驚き感動しました。成長と癒しの場所としてのラルシュと優しさについての彼の話し方に私は感動しました。

10月に、私はラルシュと‘信仰と光’の人々と友人たちとの黙想の為にクラコウ Krakow（ポーランド）にいました。それは私に、そこがまだ共産主義体制下であった1982年にラルシュと最初の繋がりを持った頃の多くの思い出を呼び戻しました。Sledziejowiceの最初の共同体は権威から注意を引き付けたいために全く隠れ、静かに、そして閉鎖的で在り続けなければなりませんでした。‘信仰と光’はすでにWroclawとワルシャワ Warsawでその数年前から始まっていました。それから‘信仰と光’とラルシュに多くのことが起こりました。私はワルシャワの大学で同じく話をし、そしてエティ Etty Hillesum と他の多くのユダヤ人達が殺害されたアウシュヴィッツ Auschwitzにある強制収容所に小さな巡礼をすることができました。そこで 祈り、今日押し倒され、殺されているすべての人々の為に祈ることは私にとって感動的でした。

ラルシュの成長と‘信仰と光’は小さい奇跡のようです。私はこの成長が我々の社会のため、特に神の神秘と神と我々一人一人との間の個人的な関係を信じるすべての人のために、そして最も貧しい人と最も弱い人が神に近いことを確信するすべての人のためであると信じます。仲間は権力でなく人間の関わり、友人たちを求めます。私は常に1963年に、Val Fleuriへの最初の訪問を思い出します、そしてその男性たちの口に出したり出されなかった叫び‘あなたは私を愛しますか？あなたは私の友達になりますか？’。知的障害者は本当に神と福音のメッセージに魅せられています。

エティは何度もどのように神が我々一人ひとりに住んでいるか書きました。タゴールは同じく我々が神の“神の社”であるよう呼ばれていることを思い出させます：

**わが生命の主なる生命よ、私は常にわが身を清くしておくよう努めましょう  
おんみの御手が生き活きと私の五体の隅々にまで触れるのを知っているからです。私は常に私の想念から一切の虚偽を遠ざけるよう努めましょう、  
御身こそは私の心に理性の火を灯してくれた真理そのものであることを知っているからです。  
私は常に私の心から一切の悪意を追い払い、私の愛を咲かせておくよう努めましょう  
私の心の内なる聖堂に 御身がいますのを知っているからです。  
そして私のもろもろの行為のうちに 御身を顕すことを私の務めといたしましょう 私に行動する能力を授けてくれるのは 御身の威力であることを知っているからです。  
(ギタンジャリ4 森本達雄訳)**

神に来て頂き 私達の心の奥底に住み 言葉、生活を通して神を顕すよう我達は皆呼ばれています。神が“私たちの愛を花に保持する”かもしれない、それは秘密です：我々の心を完全に開花して、そしてたくさんの果物を運ばせるために。

もし私がまだ旅するよう呼ばれるなら、私の喜びは同じくここトローリーTroslyの“ラファーム La. Ferme”においてラルシュの精神性、いかに弱くて、傷つきやすい人達が変わり私達を癒すか話す黙想を与えることです。先週末は私にとってそして共同体にとってなかなかの特別な時でした。幾つかの連合と共同して、私はここでパリから来た14人の路上生活者と付き添った彼らの友人達14人に黙想指導したのです。最初の晩我々一人ひとりが自分の物語を分かち合いました。我々一人ひとりのための神の愛について彼等に話すことは恵みでした。

この手紙がクリスマスと新年にかけ私の愛をあなた方一人一人に運びますように。神が我々の心で再び生きますように。我々の愛が開花し続け我々の生命が神の存在を顕しますように。

ジョン バニエ Jean Vanier